神の新創造

聖書に啓示された自然法則を超える マインドのパワー

スーパーナチュラルなディメンジョンに生きる鍵-フェイス 聖書は不可能を可能にする生き方を提示する

Dr.ルーク・カラサワ著

■神の新創造-聖書に啓示された自然法則を超えるマインドのパワー-
├─_プロローグ
├──ポータル 1: エデンの園での出来事
│ ├─人(アダム)の由来と楽園生活
├──アダムの失敗-罪と死の侵入と統治権の喪失
│
├──ポータル 2:神による救いの計画
│
アブラハムの選びと契約
│
│ │ └─イサクを捧げる-イエスの死と復活の予型
│ ├─モーセによる律法の介入
ーモーセのスーパーナチュラルな出自
│
│
│
├─サウル王による迫害
├─バテシバとの不倫
│ └─イスラエルの歴史の展開
│
│
├──ポータル 3:約束のメシアの到来
│
│ │ │ └──霊的意義
│ ├─スーパーナチュラルな神の国の到来
スーパーナチュラルなイエスのわざ
一神の国
│ ├─父・子・聖霊なる神

```
│ └─聖霊なる神
 ├─十字架へ-メシアの死
  ├─メシアの勝利-スーパーナチュラルな復活
 ──サタンの由来と敗北
  ├─イエスの血による新契約
 └─聖霊の傾注-使徒達への継承
──ポータル4:物理的領域と霊的領域
 ├─人の構成-霊・魂・体
  ├─魂の構成-知・情・意
   ├─知性(マインド)の働き‐モデルの構成
   ├─感情の働き-状況への反応
   └─意志の働き-状況へのアクション
  ──リアリティーは大脳が作り出したもの
   ├─―色即是空-クオリアの不思議
   ├─大脳は現実と幻想を区別できない
    ├─人によって異なるリアリティー
   └─現在の主流-自然科学的世界観
  ―聖書啓示のリアリティー
    ――物理的時空間と霊的世界
    ├─信とはサブスタンスの立証
    ├─御子イエスはサブスタンスの現われ
    └─世界は神の信仰と言葉 (レーマ) により造られた
―ポータル 5:スーパーナチュラルを経験する鍵-人の霊
  ├──霊は罪により死んでいる-霊的真空
  ├─罪の問題はすでに解決している
  ├──霊のスーパーナチュラルな再生-Born Again
  ├─スーパーナチュラルな新創造-第二のアダムの誕生
   └─アダム族とキリスト(第二のアダム)族
 ├─神の国は内側に存在する-神的能力・感覚の獲得
 ├─神のスーパーナチュラルな介入
 │ └─直接的な介入
 └──信仰の領域を拡大する鍵-マインドのトランスフォーメーション
├─ポータル6:祈りは天のポータルを開く
 ├─天のポータル (門) としてのイエス
```

├─救いはただ信仰による

	│ ├─旧約の救いと新約の救い
	└──救いの階層-霊・魂・体の順
	├──神には絶望はない-目前のリアリティーは変えられる
	├─スーパーナチュラルな実を得る鍵−信じることと語ること
	└──神のスーパーナチュラルな愛に生きる
\vdash	ーポータル 7:永遠の世界に生きる
	├─悪の根源サタンの究極的運命
	├─スーパーナチュラルな魂の造り変え-トランスフォーメーション
	├─スーパーナチュラルな体を得る-究極の希望
	└─スーパーナチュラルな世界の完成-神と人が調和して共に生きる

└─エピローグ

プロローグ

この本を手にされる方は、けっして偶然ではありません。神(God)のスーパーナチュラルな導きがあるのです。不可能を可能にするスーパーナチュラルなフェイス(faith)の世界へようこそ。

果たして神がいるのか、いないのか?その疑問はとりあえず保留しておいて、まずは全体を通してお読みください。それからゆっくり考えましょう。

さて聖書がいう神とは、天地万物を創造された存在です。天地万物はナチュラルな世界、自然 科学の対象となり、神はその中に自然法則を制定され、天地の運行をその法則に任されました。しかし造られた神はスーパーナチュラルな存在です。

その存在が罪を犯した人類の救いのために物理的世界に介入された、と聖書は言います。つまり聖書の啓示する世界は、本来、物理的時空間に生きるわれわれのマインドを超える世界です。いわゆる五感では把握できない世界であり、普通の理解ではおとぎ話、神話の類と思えるでしょう。が、実は、それはリアリティーなのです。これを知る鍵は人の霊にあると聖書は解きます。人の霊ってなんでしょうか?

常識的にはイエスはキリスト教の教祖であり、聖書はその経典であると思われています。果たして そうでしょうか?あのイエスなる人物はキリスト教の教祖ではありません。では何者でしょうか?彼は 創造主なる神が肉体を取られたスーパーナチュラルな存在です。

聖書もキリスト教の教典ではありません。では、何を告げる書なのでしょうか?それは神がこの物理的世界に介入されて語られた神ご自身の言葉なのです。聖書をキリスト教の教典とか道徳や倫理などの書物と考えている人にとってはちょっと信じがたい世界でしょう。人は自分の既成の世界観から逸脱する事柄には少なからず抵抗感を覚えるものです。

現在、聖書がキリスト教という宗教の世界に閉じ込められて、その豊かにして躍動する世界を一般社会では見ることができません。本書ではキリスト教の神学や儀式や伝統などに縛られない自由な世界を経験するための、イエス自身と生の神のことばが啓示しているスーパーナチュラルな世界を解き明かします。物質至上主義が行き詰まり、訳の分からない犯罪も多発する昨今、地上にはあたかも地獄の門(ポータル)があちこちに開かれているようです。世界もきな臭く、先が見えません。が、実は、これも聖書の預言のとおりなのです。

しかし、絶望には及びません。二千年前にイエスがヨハネよりバプテスマ(いわゆる「洗礼」のこと)を受けられたとき、天は裂かれ、その後も天は開いているのです。その天の領域、神の国へのアクセスは人の霊(spirit)によります。それは天国への門(ポータル)。そうです、スーパーナチュラルな世界は開かれているのです。この神に出会うとき、あなたの目の前の事件や事象によって振り回される生き方から、ダイナミックに神の国の豊かさを味わう生き方にシフトできる道があるのです。人生の方向を変え、新しくデザインすることができるのです。

「神の国はまさに信じる者の内にある」とイエスは言われます。そして「神には不可能なことはない、さらには信じる者にはできないことはない」とまで言われます。これはどんなことを私たちに意味

するのでしょうか?それとも単なるハッタリ的な励ましの言葉に過ぎないのでしょうか? 本書はスーパーナチュラルに地上に人として介入された神であるイエスが模範として提示された その世界を発見する旅のガイドブックです。Bon Voyage!

なお、本書で引用する聖句は口語訳を原則としますが、邦語訳には訳者による意訳や解釈が入っているため、一部、原語(ヘブル語、ギリシャ語)に従った語句に修正しています。その場合は注記いたします。

ポータル1:エデンの園での出来事

人(アダム)の由来と楽園生活

はじめに神は天と地を創造された。・・・神は「光あれ」と言われた。すると光があった。-創世記1章1-3節

神は言葉により、光をあらしめ、空と海を分け、次々に創造のわざを行い、6日目に人を造られました。万物は神の言葉によってできたと聖書は証言しています(ヘブル人への手紙11章3節)。この語り出された言葉をレーマ(rhema)と言います。そして客観的に何かを説明する言をロゴス(logos)と言います。このふたつを本書ではこのように漢字で区別します。この区別は重要ですので、あらかじめ覚えておいて下さい。人の創造は次のように描かれています。

神は言われた。「我々にかたどり、我々に似せて、人を造ろう。そして海の魚、空の鳥、家畜、地の獣、地を這うものすべてを支配させよう。」

神は御自分にかたどって人を創造された。神にかたどって創造された。男と女に創造された。 神は彼らを祝福して言われた。「産めよ、増えよ、地に満ちて地を従わせよ。海の魚、空の鳥、地 の上を這う生き物をすべて支配せよ。」

. . .

神はお造りになったすべてのものを御覧になった。見よ、それは極めて良かった。夕べがあり、朝があった。第六の日である。-創世記1章27-31節

人は神の形に、また神に似せて造られた被造物であると聖書は言います。他の被造物とはこの点で本質的に異なります。ですから人には愛をはじめとする諸々の徳と能力があり、人間にのみ許された尊厳を持っています。さらに詳細にみますと-

主なる神は、土(アダマ)の塵で人(アダム)を形づくり、その鼻に命の息を吹き入れられた。人は こうして生きる魂(原語)となった。-創世記2章7節

アダムとはヘブル語の土とか土壌を意味するアダマに由来します。神によって創造された人類の最初の人でした。神は人の体(body)を土のチリから造られ、その鼻に命の息(=霊、spirit)を吹き込まれると、人は生きる魂(soul)となったと聖書では述べています。ここで物質である体と神の息(霊)が何か相互作用を起こして魂ができたと読めるのです。物質世界と霊が相互作用することは後で重要になりますので覚えておいて下さい。

つまり、体、魂、霊をもつ存在として人間は造られました。この肉体的命をギリシャ語では"bios"と言い、それから現代の生物学(Biology)が派生し、魂のことを"psuche"と言って、いわゆる精神のことであり、これが現代の心理学(Psychology)の語源です。そして霊のことを"pneuma"と言いますが、これは空気とか息吹の意味を持ちます。え、霊って本当に存在するのだろうか?霊っていったい何なの?といった疑問はちょっと置いておいてください。

肉体はこの世における物理的実在と接触し、それを意識します。魂は思い(知)・感情(情)・意志 (意)からなり、自己意識の座です。そして霊はもともと霊なる神を意識する座でした。「でした」とい うのは、アダムの罪の後、それは死んでしまったからです。

ここで重要なのは、最初の人アダムは神の形と様に似せて作られ、神の息(霊)を吹き込まれていることです。つまり当初のアダムは神的な存在と言えるのです。事実、彼は地(物質的世界)と動物・生物を治めることを命じられ、それぞれに名をつけています。その能力はいかばかりのものでしょうか。

神は彼らを祝福して言われた、「生めよ、ふえよ、地に満ちよ、地を従わせよ。また海の魚と、空の鳥と、地に動くすべての生き物とを治めよ」。-創世記1章28節

主なる神は、野のあらゆる獣、空のあらゆる鳥を土で形づくり、人のところへ持って来て、人がそれぞれをどう呼ぶか見ておられた。人が呼ぶと、それはすべて、生き物の名となった。一創世記2章19節

神は人に対してある種の神的能力と権威を委ねられ、人が呼ぶことにより生物の名が付けられました。ヘブル文化では名は単なるラベルではなく、実質・実体と不可分です。つまり人が呼ぶことによりその生物の実質・実体が決定されたのです。この呼ぶ動作は、もちろん言葉を発することです。神は言葉によって万物を創造されましたが、同じように神の形と様を持つ人も、呼ぶことにより、生物の実質を決定したのです。

当初造られたばかりの人はエデンの園にあって、ある種の神の代理権を有しつつ、無垢の状態で神との調和ある交流の中であらゆる至福を享受して生きていました。裸でいても恥ずかしさを感じないほどの無垢な状態で、アダムとエバは至福の生活を送っていたのです。神はあらゆる木の実を食べて良いとし、何の欠乏も葛藤もない状態が彼らの生でした。現在でも幼い子たちは自意識にも悩まされず、親を単純に信じかつ頼って生きているのです。ところが自意識に目覚め出すといろいろと悩みが生まれ来るのです。